

基礎的・基本的な学力の定着を目指す取組
 ～学力向上推進委員会を軸とした学力向上策～
 新冠町立新冠小学校 学級数 13 (校長 五十嵐 重信)

I はじめに

本校は、児童が主体的に学ぶ授業を目指し、自分の思いや考えを積極的に他者に伝えるとともに、他者の意見に耳を傾けることで、より学びを深める児童の育成を目指して取り組んできた。しかし、全国学力・学習状況調査の自校採点において、特に算数科の学習意欲の低下や、学習の基礎的・基本的な事項の定着に至っていないことが分かった。そこで、学力向上推進委員会を中心に、ほっかいどうチャレンジテストの活用や、家庭学習・放課後学習を充実させる取組を行った。

II 実践概要

1 ほっかいどうチャレンジテストの分析

ほっかいどうチャレンジテスト
 1 学期末問題を実施し、学力向上推進委員会を中心に、分析を行った。結果として、全校的に算数科の「図形」および「数と計算」の正答率が低く、学習内容が十分に定着していないことが分かった。

2 分析結果を生かした授業改善

分析結果を学習指導要領の内容に対応させ、全教職員で共有し、学習内容の定着が十分でない領域を意識して、授業改善を行った。

3 家庭学習・放課後学習の取組

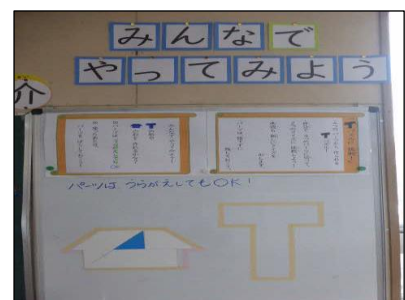
児童の学習意欲低下の要因として、学習の基礎的・基本的な事項の定着が十分でないことが考察された。そこで、学力向上推進教諭を中心に、家庭学習の取組交流や、苦手領域に関わる掲示物を作成した。また、学習内容の定着が十分でない児童の保護者と連携し、放課後学習において、ICT端末を活用した、四則計算等の補充的な学習を行った。

	A 数と計算	B 図形
第4学年	1 整数の表し方 位、兆の単位 2 概数と四捨五入 概数が用いられる場合/四捨五入/四則計算の結果の見極め 3 整数の除法 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の除法の計算の仕方/除法の計算を用いること/被除数、除数、商及び余りの間の関係/除法に関して成り立つ性質 4 小数の仕組みとその性質 小数を用いた道/小数と数の相対的な大きさ/小数の加法、減法/乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法 5 両分子の分数の加法、減法 大きさの等しい分数/分数の加法、減法 6 数量の関係を表す式 四則を混合した式や()を用いた式/公式/△、□などを用いた式 7 四則に関して成り立つ性質 四則に関して成り立つ性質 8 そろばん そろばんによる計算の仕方	1 平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形 直線の平行や垂直の関係/平行四辺形、ひし形、台形 2 立方体、直方体などの立体図形 立方体、直方体/直線や平面の平行や垂直の関係/見取り図、展開図 3 もの位置の表し方 もの位置の表し方 4 平面図形の面積 面積の単位 (cm ² , m ² , km ²) と測定 /正方形、長方形の面積 (メートル法の単位の仕組み (一・小6)) 角の大きさ 回転の大きさ/角の大きさの単位と測定 5 180°以上の角の測り方
第5学年	1 整数の性質 偶数、奇数/約数、倍数 2 整数、小数の記数法 10倍、100倍、1000倍、 $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{100}$ などの大きさ 3 小数の乗法、除法 小数の乗法、除法の意味/小数の乗法、除法の計算/計算に関して成り立つ性質の小数への適用	1 平面図形の性質 図形の形や大きさが決まる要素 図形の合同/多角形について 単な性質/正多角形/円周率 2 立体図形の性質 角柱や円柱 3 平面図形の面積 2つの図形が同じ面積になる説明

【分析結果を反映した算数の学習内容】

III 実践の成果と課題

- 課題を全職員で共有することにより、教師一人一人の授業改善の意識がより高まった。また、放課後学習の取組では、下位層児童が意欲的に参加する姿が増えてきた。今後のほっかいどうチャレンジテスト等の結果を踏まえ、成果と課題をしっかりと整理していきたい。
- 全国学力・学習状況調査や、ほっかいどうチャレンジテストの結果を踏まえ、組織的に学力向上や授業改善などの取組を進めることができているが、主体的・対話的で深い学びの更なる充実に向け、教科等横断的な視点で教育課程を見直す必要がある。



【苦手領域に関わる掲示】



【児童の家庭学習の紹介】